新編金瓶梅第九集

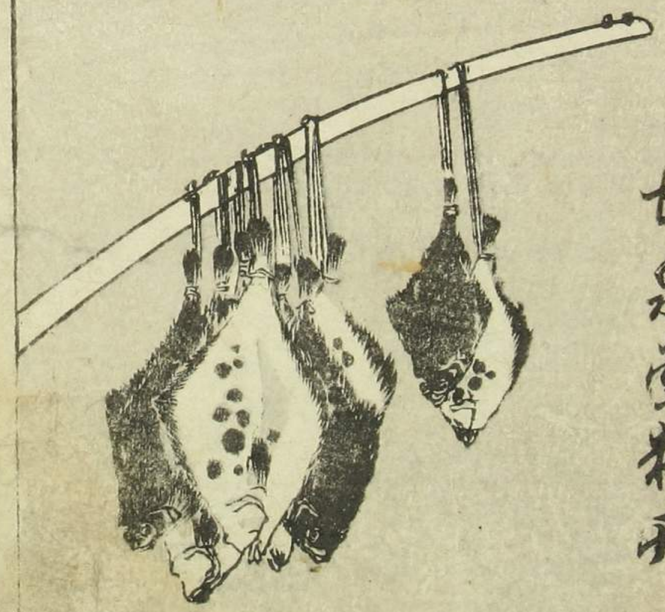
上

へ13
3223
6

へ13 特
3223
6

新編
金瓶梅
第九集
之壹

曲亭馬口授編
香蝶樓精畫



江戸芝神明前三島町
地本問屋
甘泉堂精刊

若夫花鳥風月の如き世の人是を愛ざるか。是を愛ずるか。各差あり。詩歌の為か愛る者と風流士とも飲食管絃の為か愛る者と疎人とも。盡貿利を射る為か愛る者い賈堅之開ぐ中か花か風雨の暴を怕れ鳥か桓山の哀別を慨ーて風か萬籟の吼を厭ふべく月か浮雲の障ヨヌかるを觀る者い幽静悟道の達者か花鳥の為か知己とのいち。然ば果敢る紙筆子物語と好も亦是か似ーてあり趣向の巧みく勸懲の正あるを欲ぶ者と真の看巧者と也又巧拙と勸懲とか管りでロい浮うると欲ぶを勾欄下の看官とも又唯画を見て文を見ぞ只人か話させて其崖畧を知まく欲まい是白髮の小児も書肆の得意るとも。抑造新編金瓶梅も彼三国の看官あらん左も右も勝者の強ひか国扇を抗ざらめやハ。

天保十三壬寅年春正月吉日新版　盲文人馬琴自序

春の魚 第一
名所和歌や
白魚を見る
墨田河
愚山人
再出 千早

春の魚第二
柳葉孔釘挿原や
送り穂魚
再出
志貴實一郎
奴隷
蔦平

夏の魚 第三

初堅魚

負ぶふ

走る

競ひ

狂齋

川北一郎

山路檀作

夏の魚第四

碟ふもじ夕河岸

涼し竹筴魚の反

信天翁

宇津七郎

阿漕安見二郎

秋の魚　再出　女官
第五　琴柱

腮藁の
秋ゝ
海ゝ
世さうゝ

羊肉人

伴當

冬の魚　三出東戸屋
第六　西啓

膳太し
死あぬ
つゝり
河豚
汁

蓑笠

三出　金蓮

潮

木

十
十番

桶
石

松
夢
山
川
十

楠
松
北
川

新編金瓶梅九集　曲亭馬琴作　香蝶樓國貞画

繪本名頭武者部類　前北斎筆　全

子葉百人一首　女用文入　中本　全

女孝用文章　竹家流　ちらし表入

前茶仕様集　せん茶一切のこと　大本　中本

蘭山先生著

女用文章

大本一冊

鶴賀新内正本所

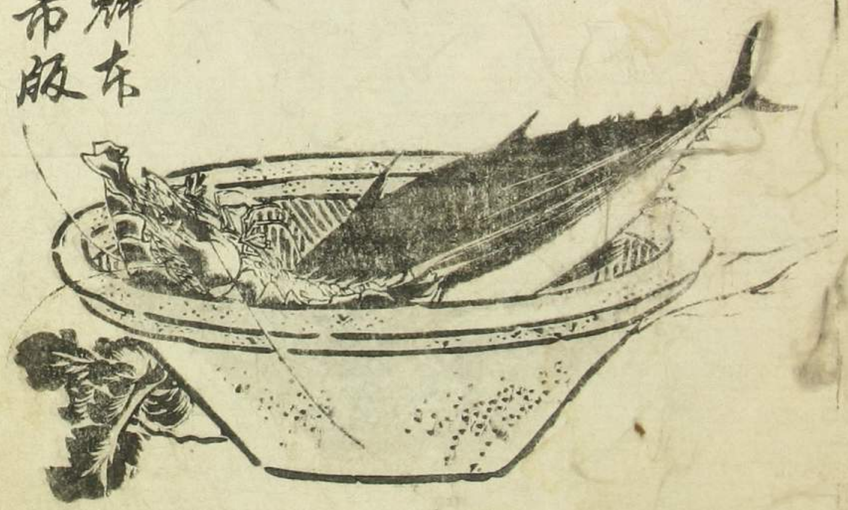
和泉屋市兵衛

馬琴作
國貞画
上巻

曲亭菊口授編
香蝶楼精画

新編金瓶梅
第九集
之貳

天保壬寅孟春刷本
續刻精刷芝泉市版



眼
頭
眼
頭
眼
頭
眼
頭

陸
白
黄

家傳神女湯

婦人の病気

特効奇聴丸

図画